

第3節

教育費

00年は、不景気の影響を受けたためか、教育費がかなり落ち込んでいたが、05年は景気の回復とともに、10年前の水準に戻っている。

●一度落ち込んだ教育費はこの5年で増加している

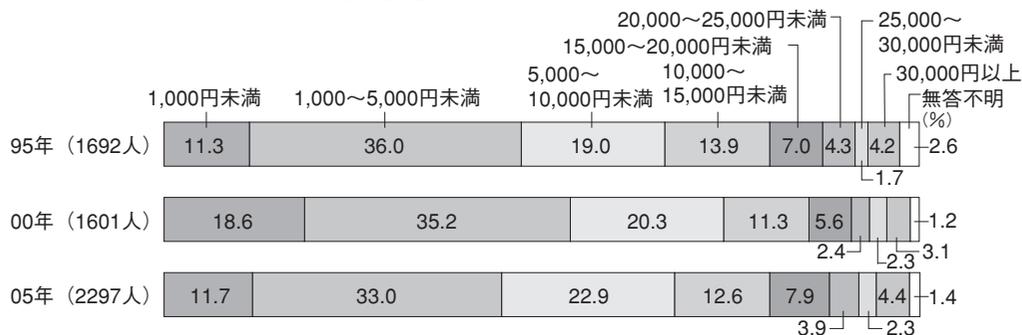
図1-3-1は子どもの1人あたりの教育費を聞いた結果である。

大半の保護者が1か月あたり子どもにかけている教育費は「10,000円未満」（「1,000円未満」から「5,000～10,000円未満」の合計）である。「10,000円以上」（「10,000～15,000円未満」から「30,000円以上」の合計）の比率を

みると、95年では31.1%だったが、00年では、不景気の影響を受けたためか、24.7%に落ち込んでいた。しかし05年は31.1%に回復しており、10年前の水準に戻っている。

1か月あたりの平均教育費をみてみたい（図1-3-2）。95年8,556円→00年7,323円→05年8,771円と、95年から00年で一度落ち込んだ教育費は05年ではV字回復している。さらに95年よりわずかではあるが、増加傾向にある。

■図1-3-1 1人あたりの1か月の教育費（10年比較）



■図1-3-2 1人あたりの1か月の平均教育費（10年比較）



注) 1人あたりの1か月の平均教育費は「1,000円未満」を500円、「1,000～5,000円」を3,000円、「30,000円以上」を32,500円のように置き換えて算出した。また、無答不明の人は分析から除外している。

●男子より女子にかかる教育費が高い

子どもの性別でみると、保護者は男子より女子のほうに多くの教育費をかけていて、その差は1か月あたり616円である（図1-3-3）。男子より女子のほうに習い事をしている割合が高いこと（05年：男子49.4%＜女子53.7%）に関係していると考えられる。

●子どもに高学歴を期待する保護者のほうが高い教育費をかけている

ここでは、子どもの進学に対する期待によって、教育費の支出額が変わってくるかをみてみたい（図1-3-4）。

子どもに高学歴（「短大卒業まで」「大学卒業まで」「大学院卒業まで」）を期待する保護者が1か月の間にかけている教育費は、95年9,064円→00年7,826円→05年9,236円と変化している。一方、子どもに高学歴を期待してい

ない（「中学校卒業まで」「高校卒業まで」「専門学校卒業まで」）保護者がかけている教育費は、95年5,592円→00年5,732円→05年6,689円と変化している。

00年の教育費については、高学歴を期待する保護者の支出が低下しているのに対して、高学歴を期待していない保護者の支出が低下していないのは月5,000円台の教育費をこれ以上削減しにくいためではないかと思われる。一方、高学歴を期待する保護者は95年では、教育費を9,000円台かけていたが、00年では、不景気などを受けて、1,238円減となった。

05年は景気の回復とともに、高学歴を期待する保護者も高学歴を期待していない保護者も、教育費の支出が増加傾向にある。しかし、子どもへの学歴期待の高さによる保護者の教育費の支出額の差は歴然と存在している（支出額の差：2,547円）。

■図1-3-3 1人あたりの1か月の平均教育費（子どもの性別 05年）



注1）0歳6か月～1歳5か月の乳幼児をもつ保護者の回答を含む。

注2）1人あたりの1か月の平均教育費は「1,000円未満」を500円、「1,000～5,000円」を3,000円、「30,000円以上」を32,500円のように置き換えて算出した。また、無答不明の人は分析から除外している。

■図1-3-4 1人あたりの1か月の平均教育費（子どもへの学歴期待別 10年比較）

高学歴を期待する保護者



高学歴を期待していない保護者



注1）1人あたりの1か月の平均教育費は「1,000円未満」を500円、「1,000～5,000円」を3,000円、「30,000円以上」を32,500円のように置き換えて算出した。また、無答不明の人は分析から除外している。

注2）「高学歴」は「短大卒業まで」「大学卒業まで」「大学院卒業まで」を表す。